

例会報告：2016年5月17日（曇り） 第1934回 通常例会

◆ 会員誕生日

大木 清さん（5月27日）

◆ 奥様誕生日

石崎 ひろ子様（5月27日）

◆ ニコニコ箱

櫻井 康二 委員長

	ニコニコ箱	累計	目標
5月17日分	7,864	933,890	1,300,000

◆ 卓話者

岡村 浩之様（藤沢RC）…本日はお招き頂きありがとうございます。卓話で皆様のためになる話が出来るとか心配です。よろしくお祈りします。

石垣 大介様（小田原RC）…本日は上司である卓話者の同行でまいりました。よろしくお祈りいたします。

◆ 奥様誕生日

石崎 孝さん…妻の誕生日のお祝いありがとうございます。ガバナー補佐の役職が終わったら、7月に一緒に旅行に行く予定です。共に元気に過ごしたいと思います。

◆ その他

西班5人グループ…西班5人グループを開催した時の残金を少々

■ ■ 今後のメークアップ情報 ■ ■

-2016年5月-

- ▶25日(水) **小田原北** 報徳会館 12:30
- ▶26日(木) **小田原中** 報徳会館 12:30
- ▶27日(金) **湯河原 家族親睦会**
- ▶27日(金) **足柄** おんりーゆ〜 12:30
「卓話：クラブ研修/活動計画書予定」
- ▶30日(月) **小田原** 報徳会館 12:30
「卓話/新会員自己紹介
佐藤良知会員・白水志治会員」

▶31日(火) **箱根**

-2016年6月-

- ▶1日(水) **小田原北** 報徳会館 12:30
- ▶2日(木) **小田原中** 報徳会館 12:30
- ▶3日(金) **湯河原** ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶(金) **足柄** おんりーゆ〜 12:30
- ▶6日(月) **小田原** 報徳会館 12:30
- ▶7日(火) **箱根**

【小田原城北ロータリー・クラブ】
 事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
 電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
 URL：http://www.odawarajhrc.jp
 Mail：info@odawarajhrc.jp
 例会場：小田原卸センター内会議室
 創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
 例会：毎週火曜日 12:30～13:30
 クラブ会報委員会
 監修：柳井 渉
 編集長：小林 和彦
 コピーライター：小林 和彦
 デザイン：小林 和彦
 フィールド：大川 久弥

会員数：39名



RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
 ODAWARA JOHOKU R.C.
 2015-2016
 WEEKLY BULLETIN



世界へのプレゼントになろう

【R.I. 会長】
 K. R. ラビンドラン
 【R.I. 2780地区ガバナー】
 田中 賢三
 【第9グループガバナー補佐】
 石崎 孝



【会長】木村 頼弘
 【副会長】久保田 知子
 【幹事】柳井 渉
 【副幹事】須藤 公司
 【会場監督】西 寛

世界へのプレゼントになろう

Be a gift to the world

本日の例会：通常例会（第1935回）・施設見学会

会場：小田原卸センター内会議室
 日時：2016年5月24日 12:30～13:30
 司会：須藤 公司 副幹事

11:00 ～11:45	開会点鐘：木村 頼弘 会長 ロータリーソング斉唱 「それこそロータリー」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告/出席報告/委員会報告 同好会報告/ニコニコ箱
15:00 ～15:45	「施設見学会」 横須賀軍港巡り
16:45 ～19:15	屋形船すずよし（懇親会）
20:40	小田原駅
21:10	例会場

■地区活動目標の概要

1.奉仕活動	ポリオ撲滅最優先 R財団地区補助金事業推進
2.公共イメージ	IM クラブ周年記念事業 ロータリーデーなどイメージ向上の機会を創る
3.寄付	財団 : 一人当たり 200ドル以上 米山奨学 : 一人当たり 20,000円以上 ポリオ撲滅 : 一人当たり 40ドル以上 ベネファクター: 1クラブ 1名以上 ロータリーカードの普及
4.会員増強	10パーセント 衛生クラブを立ち上げる。
5.中核的価値観	ロータリーを学び、また学ぶ機会として、例会・IM・地区委員会・地区セミナー・地区大会・国際大会の出席率を高める。
6.オンラインツール	My Rotary ロータリークラブセントラルにクラブ情報入力
7.特別月間	戦略計画とR財団6つの重点分野を学び実践する機会として理解する。

楽しさと感動を呼ぶ一年にしよう

【今後の例会・卓話スケジュール】

5月31日（火）通常例会 12:30
 担当：大谷会員
 卓話：NPO法人アール・ド・ヴィーブル
 理事長 萩原 美由紀様
 「障害者アートと社会をつなぐ絆」

6月7日（火）通常例会 12:30
 担当：大谷会員
 卓話：中谷彰吾税理士事務所
 所長 中谷 彰吾様
 「節税対策」

6月14日（火）通常例会 12:30
 卓話：日本ボーイスカウト 小田原地区協議会
 会長 松蔭 弘一様
 「ボーイスカウトについて」

6月21日（火）通常例会 12:30
 卓話：公益社団法人 小田原青年会議所
 理事長 杉崎 尚人様

6月28日（火）通常例会 12:30
 クラブ協議会

例会報告：2016年5月17日（曇り） 第1934回 通常例会

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2016年5月17日 12：30～13：30

❖ 会長挨拶 「点鐘について」



木村 頼弘 会長

今日は何故、「例会の時、鐘を鳴らすのか」についてお話しします。日本のロータリーの例会は開会点鐘で始まり、閉会点鐘で終わります。例会だけではなく年次大会や地区協議会、またはIM等ロータリーの会合は全て同じです。しかし、例会で鐘を鳴らすのは、日本のロータリーだけの独自の習慣と言っても過言ではないと思います。特に規定や取り決めはありません。外国では、言葉で例会の開会宣伝を告げたり、またお祈りをしてから始めたり、木槌を叩いたり、例会開始の合図は様々です。いつから始まったかは明確な資料はありませんでした。一説によると1920年頃の東京RCが使ったのが始まりではないかと言われています。

何故、鐘が使われるようになったか諸説ありますが、大きく2つの理由があります。1つ目は戦前の日本の学校教育や職場では、この鐘を鳴らすことによって、人々の行動と時間を管理していました。その時間と行動の区切りの合図として、鐘が使われるようになったとも言われています。

そしてもう1つの理由は

先ず、この鐘の音の響きです。この心地よい響きが例会場の空気を浄化させ、そこに居る人達の心を落ち着かせる効果があるという事です。

そして、例会場の空気が変わる事によって、そこに居る人達の意識も変わるという事です。

これから例会が始まるという心構え、そしてロータリアンという自覚をもって例会に臨むという、気持ちを切り替えるという目的で鐘が使われるようになったそうです。

この鐘を鳴らすという行為は、ただ単に時間や行動を管理するのではなく、精神的な部分にも大切な役割を果たしているという事です。これも日本人の感性の素晴らしさではないかと感じました。

これからは、私も皆さんも例会場に来てこの鐘が聞こえたら、気持ちを切り替え、真摯な気持ちで例会に臨んで欲しいと思います。

❖ 幹事報告



柳井 渉 幹事

1)次週は施設見学会です。例会は11時より例会場で行われます。お弁当を用意しますので例会のみ出席の方は弁当の手配の関係がありますので出欠をお願い致します。



❖ 出席報告

阿久津 馨 委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
5月17日	39(37)	31	0	83.78%
5月10日	39(38)	29	1	78.95%
4月26日	40(38)	30	1	84.21%

【欠席者】6名

大野 英明、一寸木 芳行、仲 徳子、上田 博和、

大川 裕、志澤 昌彦

【今回MU】なし

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

❖ 委員会報告

ゴルフ同好会 鈴木委員

6/5（日）箱根湯の花ゴルフ場でゴルフコンペを開催させていただきます。プレー後は「食の壺」で表彰式と兼ねて懇親会も予定しています。5/24までに出欠席のご連絡をお願いいたします。

次年度 櫻井幹事

本日17時から松田の「わたや」にて次年度理事・役員・委員長会議を行います。17時にはスタートしますので、その前に準備をお願いいたします。

❖ Table flower

- アスチルベ
- プバリア
- アルケミア



【花言葉】

アスチルベ：「自由」「きまま」

プバリア：「羨望」「夢」

❖ 卓話

「これまでとこれからの情報通信」



NTT東日本 神奈川西支店長 支店長 岡村 浩之 様

今日はNTTというよりも情報通信全体のこれまでとこれから、昔話と未来のことをお話させていただきます。

まずは通信事業の始まりから。

1869年に東京と横浜で公衆電報サービスが始まりました。147年前の話です。もう一つの事業は1890年に始まった電話サービスで、最初の加入者は東京が155人、横浜が42人でした。

人名図鑑を見ながら交換手が1本1本繋いでいたのです。そこから増え続け、電話の積滞を解消できたのは1978年で電電公社の悲願が達成した年です。1985年に民営化して自由競争の世界になりました。その時に電話料金引き下げが起こり、北海道から沖縄まで3分400円かかったのが最終的に3分80円になりました。市内では3分で8.5円です。他サービスでは全国一律のひかり電話があり、こちらは3分8円で提供しています。1988年にはISDNが始まりますが、最初5年くらいは売れませんでした。1991年にWEBサイトができてインターネットが普及し始め、1993年に日本で最初のポータルサイトがNTTで作られました。そこからネットを見るためにISDNが普及しました。固定電話のピークは1997年（平成9年）で加入者は6,322万でしたが、携帯の普及に伴い、段々減っていきます。2013年には2,876万回線、昨年は2,846万でした。1999年にはNTTが分社に入ります。今の持株会社、東日本、西日本、長距離の4社で再編成をしました。NTT東日本は圏内通信を主に司っています。今、通信大手3社はNTTグループ、KDDIグループ、SoftBankグループです。国内は競争が激化しているので、NTTグループも2010年から海外投資を始めています。初年の海外収益は2.7%でしたが、2015年には14%まで増えてきました。国際社会で力を発揮するためには色々な挺入れが必要で、NTTでもM&Aをやっています。会社を買収していき、2008年頃20億ドルだった海外の収益を150億ドルまで増やすことができました。国際競争ができる力を持った会社になることが我々のもう1つの悲願です。

2000年に入るとフレッツADSLがスタートします。インターネットに使っていただくための新しいサービスです。2001年にはBフレッツという光回線を使ったサービスが始まり、本格的なブロードバンドの到来となります。30年前は黒電話しか無かったものが、現在はスマートフォンが主流になり今後は牽引していくと思います。何故ここまで携帯電話が普及したかということ、やはり軽くなったこと。1985年に出た携帯電話は3kgあり40分しか通話できないものでした。軽量化され現在は100gクラスになってきました。通話時間も伸びて、1,000分を超えるものも出ています。携帯電話、PHSは10年前8,700万くらいの利用者でしたが今は1億5,000万の端末が世に出ています。一方加入者電話は約6,000万から2,700万まで落ちています。端末が押し上げた理由は、まずソーシャルメディアの利用が増えたこと。50%の人がフェイスブック、LINE、ツイッター、インスタグラムなどを利用しており、これからも増えていくと思います。もう1つはIoT（Internet of Things）「モノのインターネット」です。2020年には500億個のデバイスがネットワークに接続すると言われています。これから、沢山のものがネットワークに繋がって事業を展開する、色々なサービスが提供される時代が来るでしょう。現在、世界のモバイルデータのトラフィックはかなり押し上げられています。世界的にはモバイルだけで年間1.6倍、日本でも1.5倍で年々増えています。ICTに於ける基盤利用が優れているか、世界の国を比較してみましよう。日本は基盤整備で高い評価を得ています。光の通信設備が各戸まで整っている、先進性などです。しかし利用に則した部分ではアプリケーションや企業への浸透が薄いようです。韓国、スウェーデン、ノルウェーなどは個人的利用・企業利用・政府の利用などが進んでいます。日本は行政・医療・教育、どの分野も利用割合が低く、学校で学んでも利用に関してはまだまだ使われていない状況です。

そのためNTTでは昨年から販売形態を変え、光コラボレーションというモデルを開始しました。サービス事業者へ回線をまとめて卸し、その会社の自社サービスと組んでパッケージを展開し、色々な事業者へ我々のサービスを公平に提供するモデルを作っています。主に通信事業者ですが他業種にも入ってもらって約300社になりました。CMで流れている『ソフトバンク光』や『ドコモ光』もこのコラボの一環です。例としては電気・ガスなどのメーターや検針システムと連携し、お客様宅の防犯なども併せて提供することができる形態などがあります。他には販売

店とのコラボでのオムニチャンネルです。あらゆるチャンネルを光サービスと組んで、事業を多角化していただく内容になっています。もう1つ新たな方向として端末を自由化するためのMVNOのサービスがあります。SIMカードを取り換えることで通信事業者を換えて安いサービスを提供する内容となります。

NTTグループとして2020年に対応するため地域創生プロジェクトに取り組んでいます。街づくりを中心とした交通・観光・エネルギーインフラ・教育・防災・農業・医療全てと連携して一緒に地域の問題点を解決していくというサポートを始めています。またオリンピックに向けてICTを使ったおもてなしサービスを考えています。新たな設備に対するファシリティマネジメント、色々なインフラと通信を融合させるコミュニティマネジメント、ネットワーク・インフラの更なる整備、など。NTTは東京オリンピック最初のゴールドパートナーになりました。今後の情報発信にご期待ください。オリンピックの情報量は倍増しています。北京からロンドンでは通信量が7倍になったそうです。リオに向けてその7倍、東京は更にその7倍と考えられており、大きな通信が使われます。4Kテレビの実用化が始まり、映像通信量が格段にあがります。携帯電話も第5世代で大容量が送れるようになり、無線LANも増えてきています。オリンピックはサイバーテロ攻撃も防がなくてはなりません。ロンドンでは開催中2億回以上のアタックがあったそうです。セキュリティの向上が必要です。サイバー攻撃の大きな目的は情報の盗み取りと各社のHP等を機能不全に陥らせること、そこから更に社内サーバーを止めることです。防ぐためには技術者を増やすしかありません。現在国内のセキュリティ関係の技術者は26万人と言われていますが、必要なスキルを満たしている人は少なく、今後24万人の育成が必要となります。NTTでも2020年には1万人規模の人材を育てようと頑張っています。また、インバウンドが増えていくのでWiFiの急増も求められています。横浜は中華街やみなとみらい、川崎市は市内全体、湘南では鎌倉江ノ島などにWiFiの整備をしています。箱根も観光アプリを始めていますし、小田原でも皆さまのご協力をいただいてインフラ整備を目指しています。

これからプラットフォームの強化が必要です。セキュリティの面で十分な整備を行い、社会貢献・経済の活性化も考え、位置情報と連携した新たなサービスの提供も始まっています。WiFiを使っただけの動向分析も可能になりました。人の流れも分かる時代を迎え、我々は多角的にお客様の満足度を上げることを目指しています。

